

OC C 可搬式高強度光ケーブル 長尺タイプの市場投入目指す

通信ケーブル大手メーカーOC C（本社・横浜市西区、社長・川上浩氏）は2025年度内をめどに軽量可搬式の高強度光ケーブルについて、500^{kg}の長尺タイプの市場投入を目指している。軽量化フレーム・ドラムを組み合わせ、背負ったまま応急敷設が可能。

敷設に必要な人数を抑えられることが特長で、災害対応での通信復旧やイベントなどでの一時敷設用途を想定している。試作品の重量は18^{kg}で今後はさらなる軽量化を目指す。

光ケーブルはファイバをステンレスパイプで保護した「MIPAC」を使用。トレイラなどがケーブル上を通過しても破損しない強度を有するほか、保護管を使わず直接地面に敷設できる。

従来品の可搬式「MIPAC」は長さが10^mだったが、開発品はその5倍の量をドラムにセット。背負って持ち運びができるよ

うフレームはアルミ、ドラムには発砲スチロールを用いるなどして軽量化している。光ケーブルの運搬と、引き出す作業の合計2人で

敷設が可能で一般的な製品と比較して大幅に省力化していることなどが特長となっている。同社では「災害対策



可搬式高強度光ケーブル
長尺タイプの試作品

など人手の確保が難しいケースでの対応に貢献できる」としている。今後はフィールドテストと改良を進め、今年度内には市場投入したい考えだ。

